

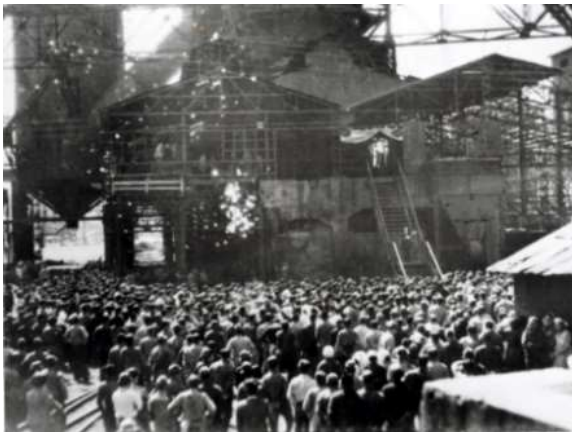
～ 釜石の戦後復興～

昭和 20（1945）年 8 月 15 日、日本はポツダム宣言を受諾し終戦を迎えました。

終戦間際に二度の艦砲射撃を受けた釜石の戦後復興は、どん底の生活の中からの出発となりました。

釜石は市民の住宅建設に取り組むなど、焼け跡の整理・復旧工事を進めました。しかし食糧難やインフレが市民の暮らしを苦しめました。

昭和 22（1947）年 8 月 8 日には、昭和天皇が市内や釜石製鉄所などを視察し、市民を激励しました。



『釜石製鉄所 復興の火入れ』

門出を祝いました。釜石の街では復興祭が開かれ、市を挙げて鉄の街釜石の復興を祝福しました。

釜石製鉄所の高炉に火が入り、釜石の街が復興しはじめると、釜石と花巻を結ぶ鉄道の開通が切望されるようになりました。

昭和 23（1948）年 12 月に未開通区間の工事が着工され、昭和 25（1950）年 10 月 10 日、ついに釜石線が全線開通しました。これにより人々の行き来や、内陸への迅速な魚介類の運輸が可能になりました。



『昭和天皇の巡幸』

その翌年の昭和 23（1948）年 5 月 15 日、壊滅的な被害を受けた釜石製鉄所の高炉に再び火が入ります。

高炉の火入れ式には商工大臣や日鐵首脳など 500 人が出席し、釜石製鉄所の新たな



『釜石線全線開通に喜ぶ市民』